

大阪府歯科技工士会 専門課程

講演テーマ

補綴物形態のあり方を考える

～ラボサイドが押さえておくべきチェアサイドの情報～

講演 概要

「治療」の中心となる患者が望む審美性はもちろんのこと、制作された補綴物の色調・形態が性別・顔貌・口唇・歯周・隣在歯などといかに調和しているが思慮深く観察する必要がある。また、患者が希望する口腔状態が作られた後にいかにそれが長期的に健全な状態で保たれていくかなど、患者はもちろんもこと我々にも大きな課題となっている。

これらの課題を解決するためには、歯科医師と技工士、衛生士の三者が修復治療の目的をしっかりと持ち、専門性を活かして、患者の口腔内を正しく評価・診断を行う必要があり、治療が進む中で制作される補綴物は、咬合はもちろんのこと歯周などにも配慮されていることが、とても重要である。

歯科医師・技工士・衛生士の三者の連携が修復治療の成功のカギと言っても痛言ではない今日における歯科医療にとって、'ラボサイド'が押さえておくべき'チェアサイド'の情報の重要性についてお話させて頂きたいと思います。

大阪府歯科技工士会 教養課程

講演テーマ

「歯科技工の潮流」

講演の概要

歯科医療業界の流れが大きく変化し、われわれ歯科技工業界においてもマテリアル (材料)を含めた変化を皆様も日々の臨床の中で感じられていることと思います。

しかし、いつの時代、どの業界においても基本となる不動のものと進化(環境へ適応)するものがあり、業界の変化に伴い、私たち歯科技工士も新しい知識・技術を取り入れながら進化していかねばなりません。

そこで今回は、私の歯科技工暦 30 年の経験を通して得た歯科医療現場で求められる歯科技工のあり方を含め、過去・現在・そしてこれからの未来の歯科技工会の方向性についてお話させて頂き、新しい学びの'エッセンス'を明日からの臨床にお役立て頂きたいと思います。